



The CLPA Times

The Extra Issue

March, 2006 Published by CLPA.



SCF2005開催さる! CLPAブース、大盛況!

アンケート集計数5,000件を突破! 設立5周年記念セミナーも併せて開催!

コントロール技術の一大展示会・SCF2005が、昨年11月15日より4日間、東京ビッグサイトにて開催された。日本発&初のオープンフィールドネットワーク「CC-Link」の普及活動を推進するCC-Link協会<略称CLPA、会長 関口隆氏(横浜国立大学 名誉教授)>も、満を持して出展。安全ニーズを先駆けた「CC-Link Safety」コーナーなどに大きな反響があった。また、CLPA設立5周年を記念して開催されたセミナーには、国内外のパートナー・お客さまが多数参加。フィールドネットワークの進展を誓い合う有意義な1日となった。

設立5周年を機に、新たなメッセージを発信。ひととき注目を集めた、CC-Link Safetyコーナー。

「SCF2005」では、CC-Link5周年の歩みと今後の取組みについて、さまざまなメッセージを発信した。今後の取組みでは、安全ネットワーク「CC-Link Safety」を発表。さらに、加速するグローバル普及への精力的な取組みとして、中国国家規格GB取得で発展の目覚ましい中国市場での採用事例(北京現代自動車様 提供)を、インタビュー映像を交えて紹介した。そんな盛況のCLPAブースの中でもひととき注目を集めたのが、「CC-Link Safety」コーナーである。CLPAでは、安全分野へのCC-Linkファミリーの普及拡大を図るべく「CC-Link Safety WG(ワーキンググループ)」(現在15社の参画で進行中)を設置。その仕様策定を進め、すでにβ版プロトコル仕様を完成させるとともに、WG参加企業による対応製品の開発を精力的に行ってきた。SCF2005においては、「CC-Link Safety」の特長やシステム構成例など、その成果が初めて披露された。また、SCF2005

会期中の11月18日にはCLPA主催のワークショップを開催し、「CC-Link Safetyの概要と応用」と題して安全システムの動向や「CC-Link Safety」の概要、特長、応用例などについて講演を行った。多数の方々に聴講いただき、安全に対する関心の高さがうかがわれた。

WG参加企業の協力による、「CC-Link Safety」展示。

安全マスタ局として「CC-Link Safetyマスタ」(三菱電機株式会社にて開発中)、安全スレーブ局として、「CC-Link Safetyリモート出入カユニット」(三菱電機株式会社にて開発中)、「CC-Link Safety対応ロボット」(不二越株式会社、ヤマハ発動機株式会社IMカンパニーにて開発検討中)と「CC-Link Safety対応ライトカーテン」(SUNX株式会社にて開発検討中)が接続。また、安全I/O経由で、「安全スイッチ」(IDEC株式会社製など)、「ライトカーテン」(SUNX株式会社、株式会社キーエンス製など)といった安全機器に接続可能となっている。



<展示協力パートナー>
IDEC株式会社、株式会社キーエンス、SUNX株式会社、不二越株式会社、三菱電機株式会社、ヤマハ発動機株式会社IMカンパニー(敬称略、50音順)

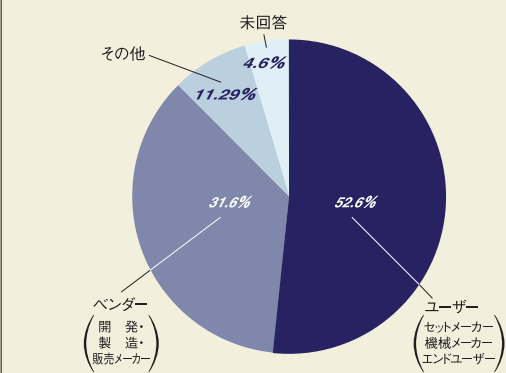
アンケート総数5,000件を突破、SCF2005!

この声を、CC-Linkのつぎの進化へ。

CC-Linkの今後の進展に活かすべく、CLPAではSCF2005においてアンケートを実施。ブース来場者の多数のご協力をいただいた結果、その集計数は、4日間で実に5,000件を超えた。その結果の一端を紹介しよう。

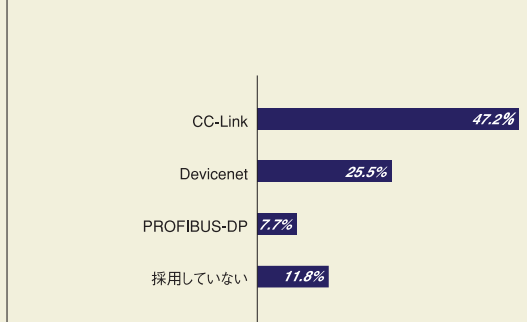


Q フィールドネットワークにおける貴社の立場は何に該当しますか。



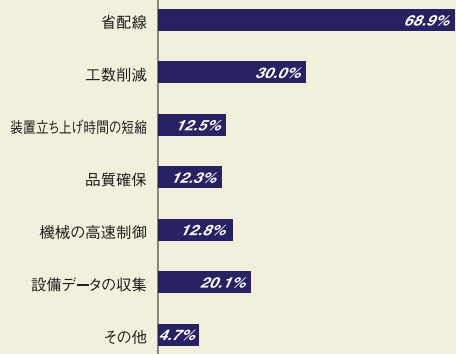
2003年にくらべ、ユーザー層に多数来場頂いた。

Q 貴社においてご採用中のフィールドネットワークは何ですか。



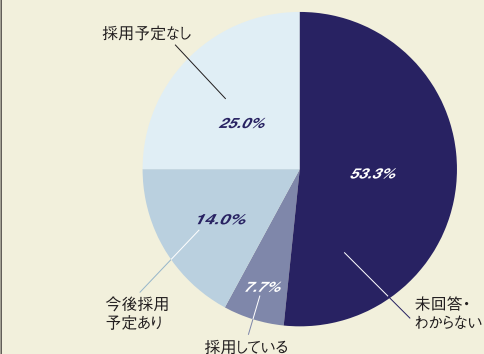
2003年よりもCC-Link採用のユーザー・ベンダーは増加。「採用していない」は大幅減少。

Q フィールドネットワークを使用されている方へ。ご採用されるメリットについてお答えください。



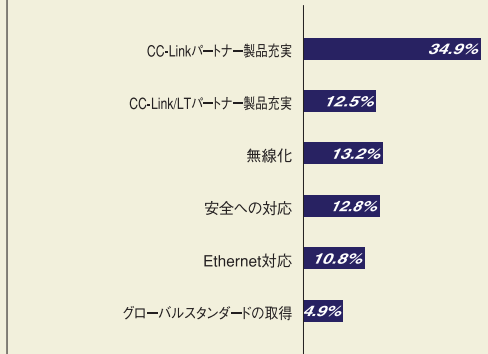
第1位は2003年と同様で「省配線」。その他のメリットも増加してきている。

Q 貴社において省配線型安全ネットワークを採用されていますか。



「採用している・採用予定あり」は2003年とほぼ同数。「採用予定なし」は減少。

Q 今後CC-Link・CLPAで重点的に取り組んで欲しいテーマについてお答えください。



高い関心の「パートナー製品拡充」、「安全対応」、「無線化」には、CLPA・パートナーが一丸となって、精力的に取り組んでいく。

5th Anniversary

合い言葉は「CC-Linkと共に、めざす先へ」!

熱気にあふれた、CLPAブース!

パートナー一団となった「Shake Hands展示」も成功裡に!

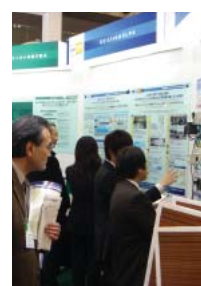
「CC-Linkと共に、目指す先へ」を合い言葉にパートナーが一丸となって取り組んだ、SCF2005。それを象徴したのが、CLPA5周年特製スタンド・ステッカーをCLPAパートナーブースに掲示した「Shake Hands」展示である。この趣旨に賛同した38社のパートナー(SEMICON Japanでは26社)が「Shake Hands」展示に参加。来場者に、CLPAの一体感を強く印象づけた。



▲当日は出展パートナーのブース位置が一目でわかる「Shake Handsマップ」を配布。

半導体分野でも、ますます注目を集めるCC-Link。

SEMICON Japanに5年連続出展!



世界最大級の半導体製造機器の展示会「SEMICON Japan」へのCLPAによる出展は、今年で5年連続となった。今回も、半導体分野でのCC-Linkの活用と、今後の可能性についてを紹介。特に、半導体製造装置にも適用できるCC-Link対応製品についてのパネルや実機による展示は数多くの質問を集め、その注目度の高さを物語っていた。

SEMICONでのヤマハ発動機株式会社ブース内でのShakeHands展示 ▶



加速するCLPAの勢いを実感! 設立5周年記念セミナー開催さる!



CC-Link対応製品数700機種・パートナー700社を達成するなど、ますます勢いを増すCLPAが昨年11月、設立5周年を迎えた。これを記念してSCF2005と時を同じくして、グランパシフィックメディアにて「CLPA設立5周年記念セミナー」が開催された。CC-Linkの普及に貢献している国内外のパートナー、ユーザーに多数参加頂いた。また関連のネットワーク団体や半導体などの業界団体、報道機関からも多数参加頂いた。第1部のセミナーにおいては、東京大学大学院教授であり「ワールドビジネスサテライト」のコメンテーターでもある伊藤元重氏が基調講演。

さらにテクノロジーセッションでは、幹事会社であるIDEC株式会社 藤田氏が「安全技術の最新動向」、三菱電機株式会社の尼崎氏が「産業用ネットワークの技術動向」のテーマで講演した。また、第2部では、CC-Link普及に功績のあった企業・団体を表彰する「CLPA Award2005」が発表された。

CLPA Award 2005 受賞社・団体	
パートナー部門	SMC株式会社、倉茂電工株式会社、神奈川産業技術総合研究所
特別部門	同濟大学(中国)、漢陽大学(韓国)、機械工業研究所(台湾)
ユーザー部門	現代自動車(韓国)

